

●5月1日に結成30周年を迎えての会誌60号が146頁で完成しました。

印刷製本袋詰めをして郵送をしようと張り切ってこの日を迎えましたが60冊程度の印刷が進んだところで電動ホッチキスが動かなくなっていました。担当してくれていた森島さんや応援していただいた太田さんが2時間ほど四苦八苦して故障箇所を探したり、バラしたり組み立てたり悪戦苦闘をあらん限り試みましたが、製本ができませんでした。我々の手では修復が難しいと見込んでアヴニール印刷機屋さんに頼んでみたところ気安く来ていただくと、これまで使ってきたホッチキスの針が少し古びていて抑え込むところが出来なくなっているからとのことで瞬間に修復できてしまいました。故障が起きると悪くなっていると素人の私たちは考えてしまうのですが、そうではなくて取り付けた新品と思って使いだした部品に問題があったのです。この日にやり切ってしまうと駆け付けて頂いた皆さん8名が長い時間手持ち無沙汰になりましたが粘り強く5時過ぎまで頑張っていたら100冊の製本が出来ました。遅くまでご苦労さまでした。そして残った作業は続いて2日に5名の皆さんが自主的に駆けつけて来られて完成させていただきました。連休の最中、予定外の出来事でのご協力をくださってありがとうございます。出来上がって郵送をしようとしたら本日から郵便局は6日まで休んでいるとのことで驚きました。至極当たり前の事なのですが、高齢者でいつも日曜日の私たちにとっては気の付かないアクシデントでした。



●連休の最終日6日(水)の事務局会議には高校生含んで6名の出席で熱心に論議を展開しました。

2・3日は雨天で4・5日は北海道で雪が降るという天気でした。5日はにわか雨が降り北海道では雪が降るという天気です。6日の昼間は少し暖かくなってくれました。こんな天気の中、里山の会は6日の午前中を定例の事務局会議で6名の方々が集まっていたいただきました。翌日7日のパソコン教室に週刊ニュースの発行日ですので皆さんお世話にならないければなりません。そして郵送分の手配り以外の会誌60号の発送ですので、休んでいる間もない忙しさです。

●里山農園5月3日の夜間の大雨で里山農園の玉ねぎ畑が(2号地)がひどい水たまりになっていたため中沢さん親子で排水路の溝の泥を掻き出しの作業を行って水を流しだしていただきました。ここは粘土質なので下に浸みこみにくく、いつも排水が困難となっていました。おいでになった中沢さんが発見されて排水作業を行っていただき大変ありがたいことでした。これで玉ねぎも水が抜けてほっとしていることだと思います。お世話になりました。

●5月9日(土)夏収穫する野菜の植付けを10時から行います。ご参加ください。

早くも5月になり夏野菜の種まきや植付けを行う時期となりましたので5月9日の土曜日に10:00から万願寺やピーマン、その他の野菜などの植付けを計画しています。昨年は11種類を勢いよく植付けしましたが、販売活動がうまくいかず途中からしりすぼみの状況になってしまいました。今年は昨年の経験から手入れが行き届く範囲での規模にして、しっかり栽培してみたいと思います。私たちの力が及ばないと思いますが応援いただける皆様の小さな力が集まって大きな力になると期待をしていますのでよろしくお願いいたします。今年も交付金申請する交響プロジェクトが無くなって自力での運営となりますので大変厳しくなります。昨年の里山農園に対する

支出金は13万円となっています。これには耕運機などの燃料費は含まない計算になっています。成果物を得るお世話を朝市などで販売されてきましたが、大村さんが退会をされたのでキビしくなりそうです。ご協力をお願いいたします。

●5月16日(土)は丹後の宮津で海と星の見える丘公園で「京都いきものフェス2026」が開催されます。

「竹ペンの普及啓発と松かさツリー」の出店販売を目的に、そして里山の会の活動紹介の展示をメインとして出かけます。そして帰路にでも時間を見つけて天橋立の松かさを拾ってこようかとスケジュールをしています。出展会場に9:20分に到着すればガイドを引き受けて頂けるようですので里山の会事務所を午前7時に出発する予定です。日程に余裕がある方のご参加があればありがたいところです。ご連絡をいただければ嬉しいです。

●総会で30周年に向けての呼びかけを行いましたので紹介いたします

30周年記念に向けての呼びかけ

三十年という歳月は、自然の営みの中では一つの季節のように静かに流れていきます。しかし、私たちが歩んできた三十年は、決して静かなものではありませんでした。

木津川の希少種を守るために炎天下を歩き続けた日々、荒れ果てた放棄田を仲間と共に再生した喜び、地域の方々の理解と協力に支えられながら積み重ねてきた無数の活動。それら一つひとつが、里山の会の歴史を形づくり、今日の私たちをつくってきました。

この三十年は、自然を守る活動であると同時に、人と人がつながり、支え合い、未来へ希望をつないできた三十年でもあります。

年齢を重ね、体力の衰えを感じる場面も増えました、それは決して後退ではありません。長い年月をかけて積み上げてきた経験と知恵が、次の世代へと受け渡される段階に入ったということです。

幸いにも、若い世代の芽が育ち始めています。新しい力が加わることで、私たちが守ってきた思いは、形を変えながらも未来へと続いていくでしょう。

私たちが今できることは、無理をせず、しかし誇りを持って、これまでの歩みを丁寧に次へつなぐことです。

2026年度は、特別な挑戦を求める年ではありません。三十周年という節目を祝いながら、これまで支えてくださった皆さまへの感謝を胸に、例年の活動を穏やかに、確実に続けていく一年にしたいと思います。

この会が歩んできた三十年は、地域の自然と文化を守る大切な財産です。そしてその財産は、これからも静かに、しかし確かに、次の世代へと受け継がれていくはずで

どうか皆様、これからの一年を、「終わり」ではなく「次の始まり」へ向かう時間として、ともに歩んでまいりましょう。

5月に咲く木津川の花を紹介します

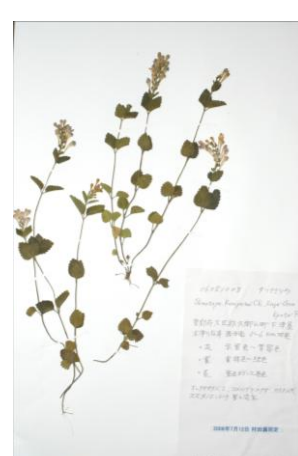
ムラサキツユクサ



セイヨウヒキヨモギ



タツナミソウ



「京都木津川の草花たち」を基にして、頁に余白があれば順次季節の花を紹介してゆきます

木津川を身近にするきっかけになればいいかなと思います。